

ユキヤナギハマキフシダニの発生状況と防除

福島県農業総合センター 生産環境部作物保護科

1 部門名

花き - その他花木 - 病害虫発生、病害虫防除

2 担当者

三田村敏正・荒川昭弘

3 要旨

ユキヤナギの新奇害虫であるユキヤナギハマキフシダニの福島県内における発生状況を調査し、薬剤による防除効果について検討した。

- (1) ユキヤナギハマキフシダニは桑折町、郡山市田村町、須賀川市、塙町のユキヤナギ生産ほ場で確認され、公園や民家の植栽でも被害が見られた(図1)。
- (2) ユキヤナギハマキフシダニによる葉縁巻(はべりまき)症状は6月から発生し、7～8月に急増した(図2)。
- (3) アブラムシ類防除を目的として、MEP乳剤(スミチオン乳剤)を5月上旬に散布することでその後の葉縁巻症状が少なくなった(図2)。
- (4) MEP乳剤を散布したユキヤナギ栽培ほ場では、散布期間中は被害がなく、散布を実施しない8月以降に被害が発生したこと(表1)から、葉縁巻が増加する8月以降の防除も必要と考えられる。
- (5) MEP乳剤は促成花物として栽培しているユキヤナギほ場の一部で薬害が確認されたが、枝物(葉物)として栽培されているほ場での薬害は確認されていない。

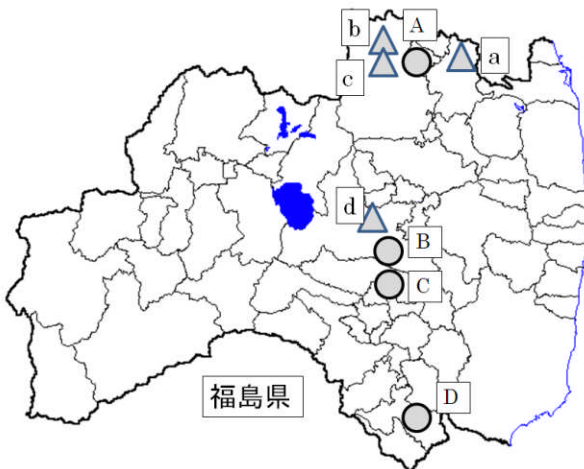


図1 福島県内におけるユキヤナギの葉縁巻確認地点

○:ユキヤナギ栽培ほ場、△:公園または住宅地の植栽

A:伊達郡桑折町、B:郡山市田村町守山、C:須賀川市前田川、D:東白川郡塙町、a:伊達市梁川町、b:福島市飯坂町館ノ山公園、c:福島市大笹生十六沼公園、d:郡山市日和田町、農業総合センター。確認地点の中で、B、Cについては2010年の調査による確認、これ以外の地点は2012年5月～7月に調査を実施した。

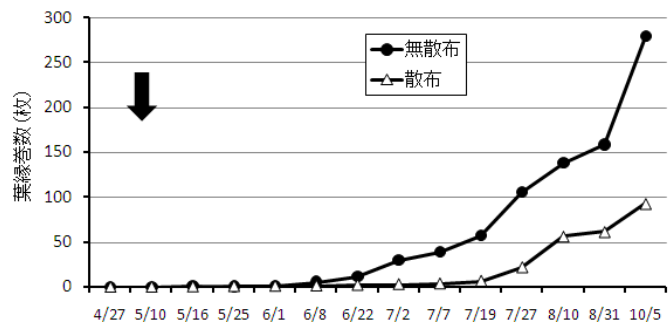


図2 薬剤散布がユキヤナギハマキフシダニの葉縁巻数に及ぼす影響

調査は農業総合センター内に植栽されているユキヤナギを用い、1区5株2連制とした。散布区では5月7日にMEP乳剤1000倍を散布した(矢印)

表1 ユキヤナギ栽培ほ場における薬剤散布実績と葉縁巻発生状況

	5/6	5/21	6/15	6/19	6/25	6/29	8/3	9/26
塙町	MEP乳剤	MEP乳剤	MEP乳剤	×	MEP乳剤	×	×	
桑折町	5月上旬	5月中旬	6月上旬	6/21		7月上旬		10/4
	MEP乳剤	MEP乳剤	MEP乳剤	×		MEP乳剤		

MEP乳剤1000倍散布、は葉縁巻あり、×は葉縁巻なし

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成23年度～26年度
- (2) 研究課題名 新奇・難防除病害虫の効率的防除技術の開発
- (3) 参考となる成果の区分 (指導参考)

5 主な参考文献・資料

- (1) 平成24年度センター試験成績概要